

新指定文化財紹介 午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物

和光市教育委員会

- ・種 別：有形文化財（考古資料）
- ・員 数：107点
- ・所在地：和光市
- ・所有者：和光市
- ・指定年月日：平成29年3月31日
- ・出土地：午王山遺跡

（和光市新倉3丁目2841 - 1ほか）

出土地の午王山遺跡は、旧石器時代から中世までの複合遺跡であるが、武蔵野台地の北縁辺に集中する遺跡群のなかで、弥生時代遺跡として独立丘陵上を占拠する唯一の環濠集落であり、埼玉県南部から東京都北部の荒川下流域での重要遺跡である。

午王山遺跡は、第1次調査から第15次調査まで発掘調査が行われ、150軒以上の住居跡と3条の環濠が検出されている。そのなかで、住居跡と環濠から出土した弥生時代遺物において、時期区分の要素、地域間交流を示す要素、その他祭祀遺物などで、文様・器形等の特徴を示す遺物を和光市指定文化財として指定した。

指定遺物としては、下記の三要素の観察から選択された。

1 時期的要素

- ①中期末葉の宮ノ台式土器

②後期前半の中部高地系櫛描簾状文土器（岩鼻式）と東京湾岸系（久ヶ原式）の混成を示す資料

③後期中葉から後半の東海系疑似縄文土器（菊川式）の波及・定着を示す資料

④午王山遺跡での弥生集落の終焉を示す資料

2 地域間交流の要素

①北武蔵（比企・入間）地域と東京湾岸の共存関係

②東海地方からの移動

③銅鐸形土製品、青銅製品の出土

3 祭祀・装飾品等

双角双孔土製品、土鈴、土製勾玉、土製玉等

市指定文化財として、指定されるまでには、平成27年2月18日和光市文化財保護委員会において、諮問を受け審議することとなり、計6回の文化財保護委員会議での審議の他、実見調査及び事務局との調整を行い、埼玉県文化財保護審議委員の柿沼幹夫氏にも平成27年12月3日に午王山土器を実見していただき、ご意見を伺った。

平成29年2月22日以上の経緯により、諮問から実見調査等を経て、出土遺物の最終選定の後、弥生時代の遺物としての重要性をまとめ、別紙のとおり答申された。同年3月30日教育委員会会議にて承認後告示され、同年3月31日和光市指定文化財に指定された。

平成29年2月22日

和光市教育委員会
教育長 戸部 恵一 様

和光市文化財保護委員会
委員長 田中 明

午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財指定について（答申）

平成27年2月18日付け、和教生代179号で諮問された「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財指定」について、審議した結果を別紙のとおり答申いたします。

午王山遺跡の弥生土器の指定について

午王山遺跡の弥生時代の環濠集落から出土した多くの土器は、中期末から後期初頭に、集落の形成と環濠の掘削をはじめ、終末期には村が廃絶し、古墳時代に継続していない。一般的に弥生時代の環濠集落は、終末期でほとんどが廃絶し、古墳時代まで継続する遺跡は少ない。一例を挙げると奈良県の弥生時代前期から後期に継続した、唐古・鍵遺跡から纏向遺跡への移動に象徴されるが、東海地方から南関東地方で発展した環濠集落の多くが、古墳時代に継続しない。北区赤羽台遺跡の弥生時代の環濠は、後期に廃絶し古墳時代には西側に方形遺構の居館が形成され、社会構成の変化を示すことになる。

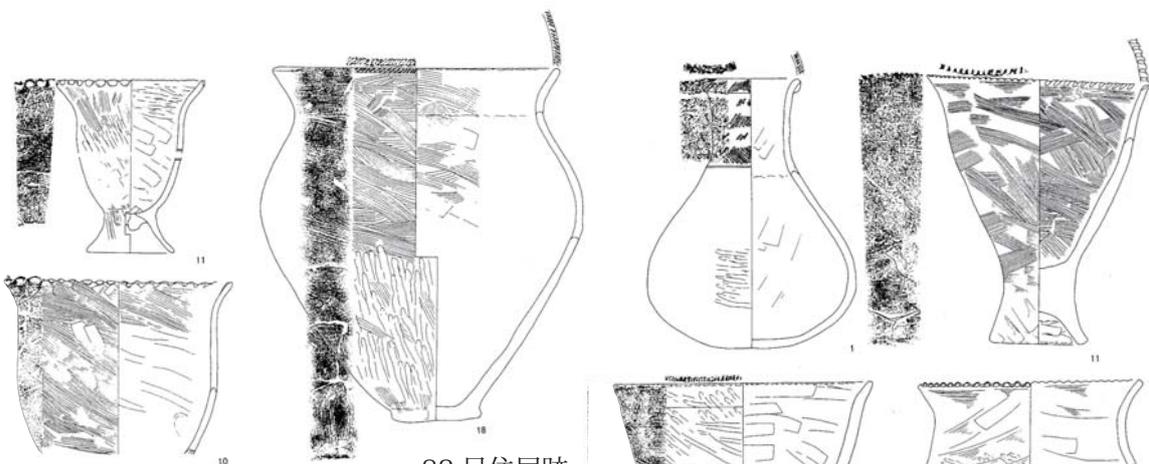
午王山遺跡の環濠集落は、ほぼ弥生時代後期の200年間に継続したと考えられ、土器の型式の変化が長期に及ぶことになる。南関東地方の中期末の宮ノ台式から、後期の久ヶ原式と弥生町式に、古墳時代と考える前野町式まで、学史による分類が長く使用されてきた。

今回の市指定の候補となった弥生土器は、多くが南関東系の宮ノ台式から弥生町式に属すると考えているが、遺跡の内容から複雑な様相を示している。北関東系の櫛目文土器の岩鼻式土器や、縄文と輪積痕が特徴の吉ヶ谷式土器との関係を窺わせる北からの土器群と、櫛状工具による連続刺突文の羽状文壺形土器が、東海地方の静岡県（遠江）中部の菊川式に類似する土器も出土し、南北の遠隔地との交流を示している。銅鐸形土製品は、東海地方の三遠式銅鐸や小銅鐸との関連が想定できる。

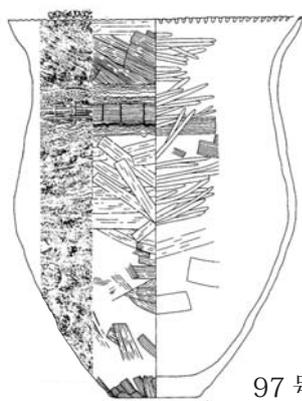
指定候補の弥生土器は、竪穴住居跡と環濠からの出土品に大別され、前者の集落の開始期中期末の特徴を示す82号、後期はじめの北関東系の97・1・108・74・141号と、南関東系前半の137・5号のナデ整形甕から、後半の75・57・109・62号の刷毛整形甕に分けてみた。環濠2号の溝中から発掘した土器群は、壺・甕、鉢・碗の全形の状態の良好な土器を中心に、壺と鉢は文様の特徴を考慮して選択した。住居跡の69・141・116号の土製品と、99・95号と2号溝の手捏土器に土鈴と青銅製品を加えた。

環濠2号の銅鐸形土製品は、3点が西溝で第5次、南溝で第3・7次に出土し、様々な特徴で銅鐸そのものか小銅鐸を模倣したか不明である。朝霞市向山遺跡の2点と板橋区四葉地区遺跡群でも1点が報告されている。

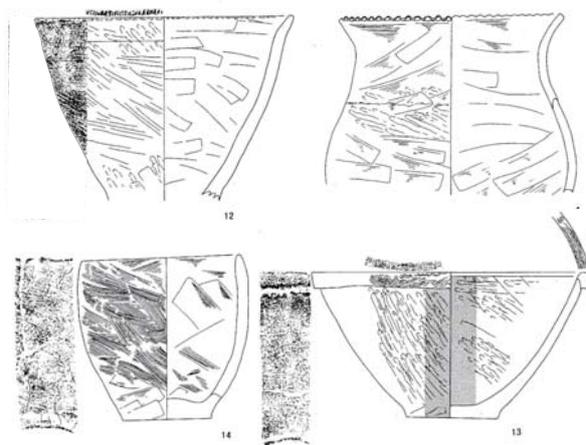
住居跡の土製品は、勾玉形3点・円形土板4点・小玉4点・不整形1点に、環濠2号の円形土板があり、装飾か信仰の意義があるか問題である。



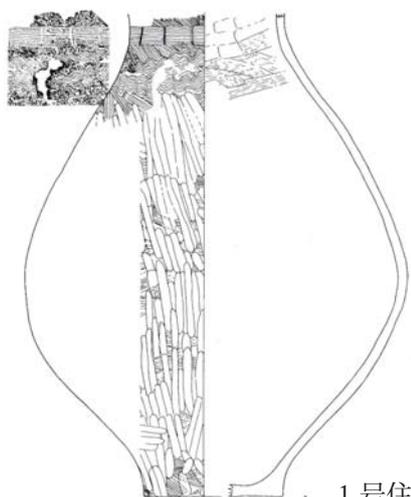
82号住居跡



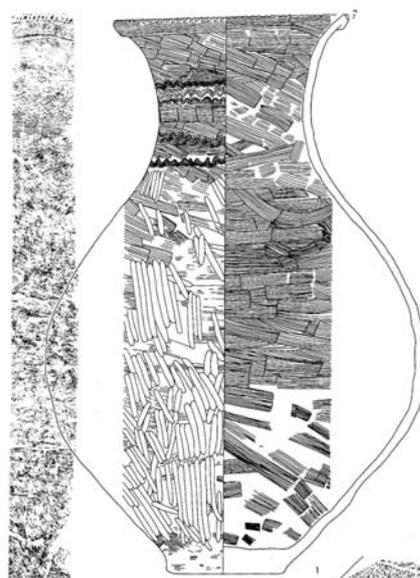
97号住居跡



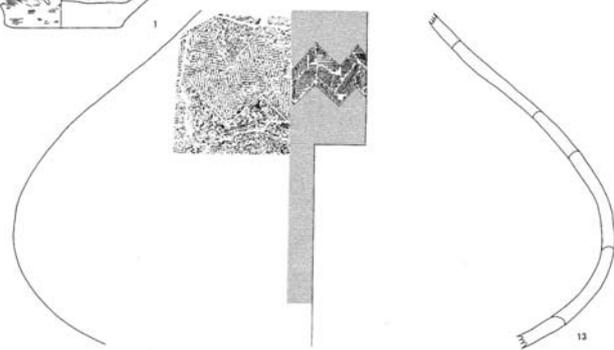
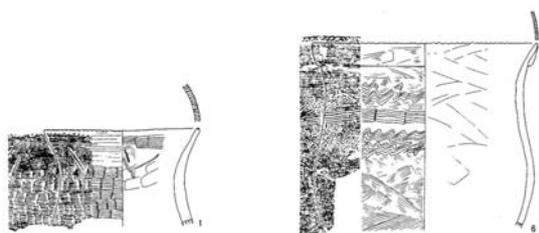
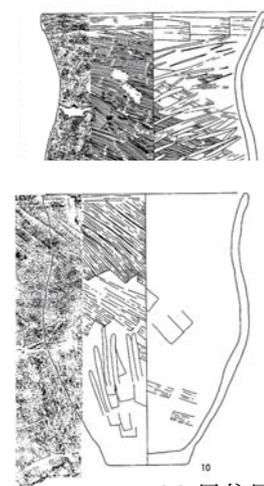
72号住居跡



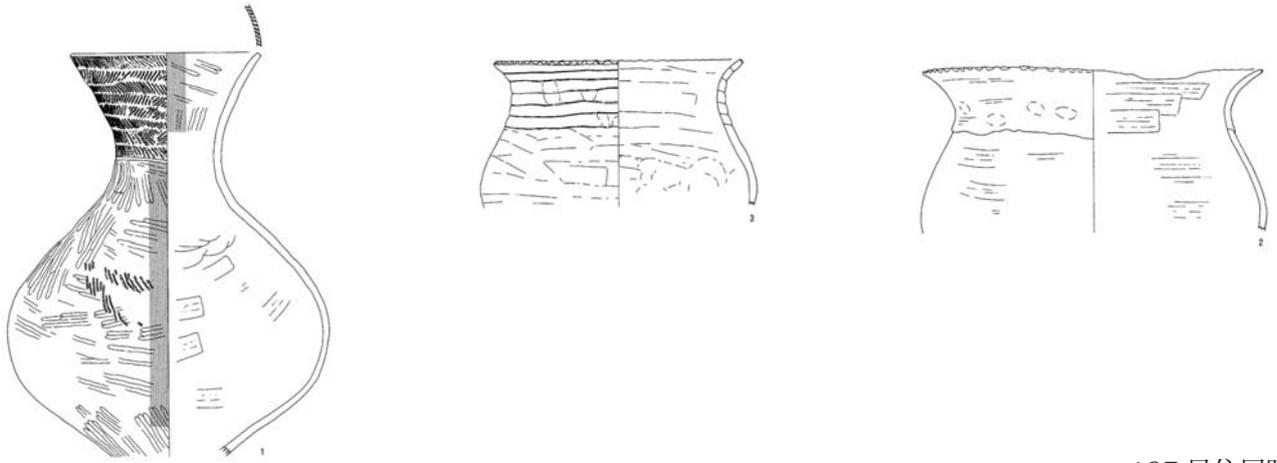
1号住居跡



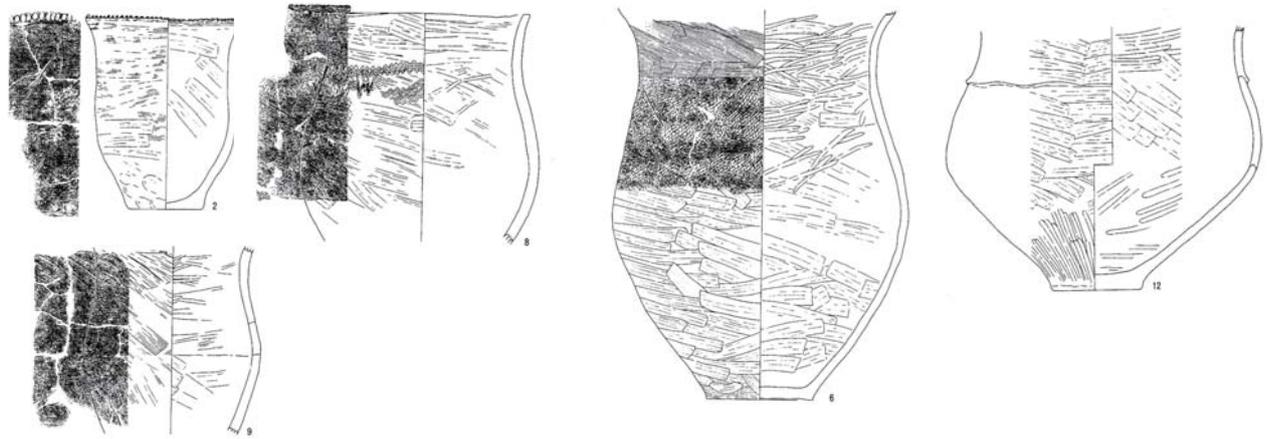
108号住居跡



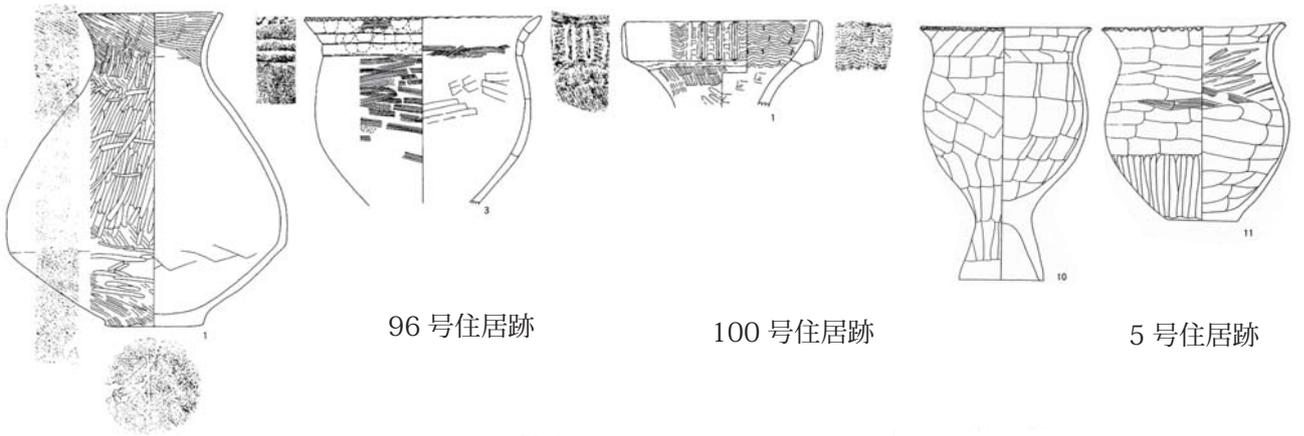
74号住居跡



137号住居跡



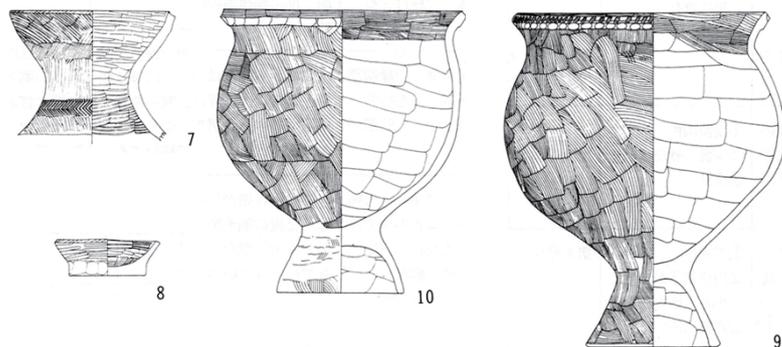
141号住居跡



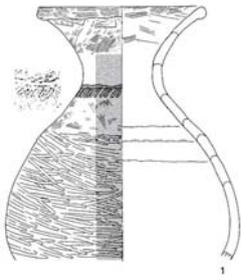
96号住居跡

100号住居跡

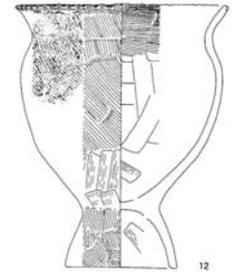
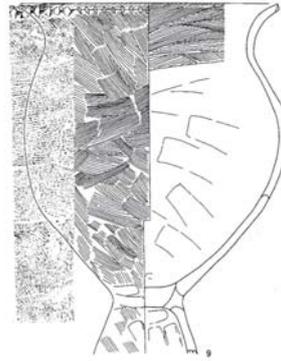
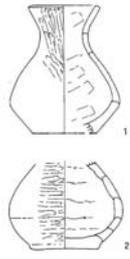
5号住居跡



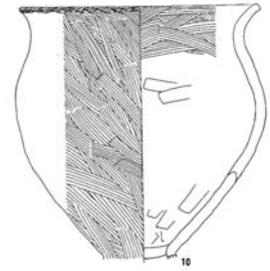
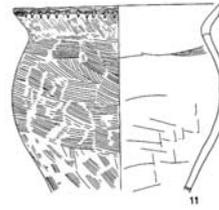
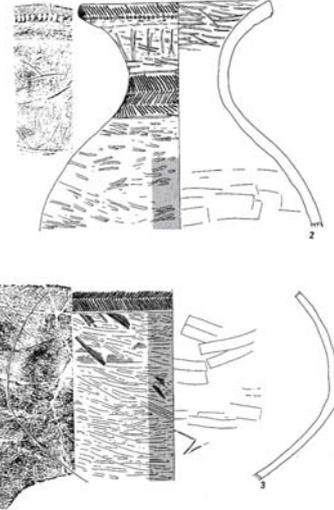
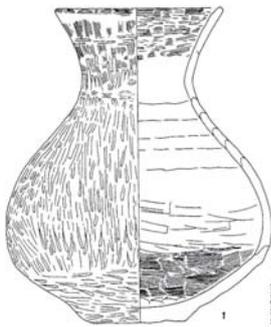
9 10号住居跡



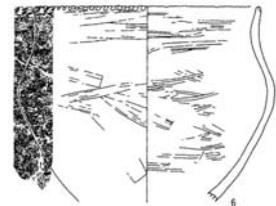
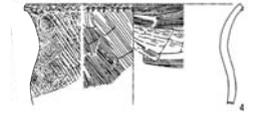
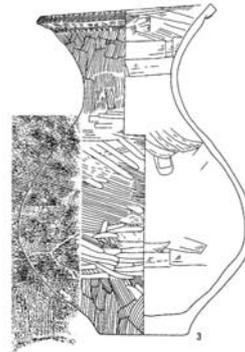
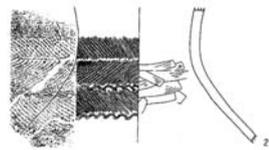
63号住居跡



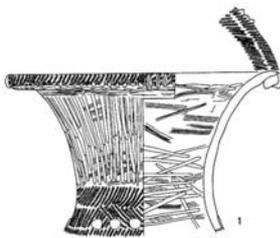
75号住居跡



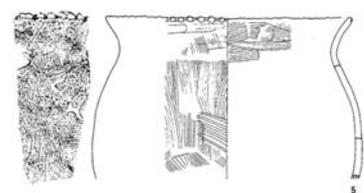
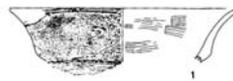
57号住居跡



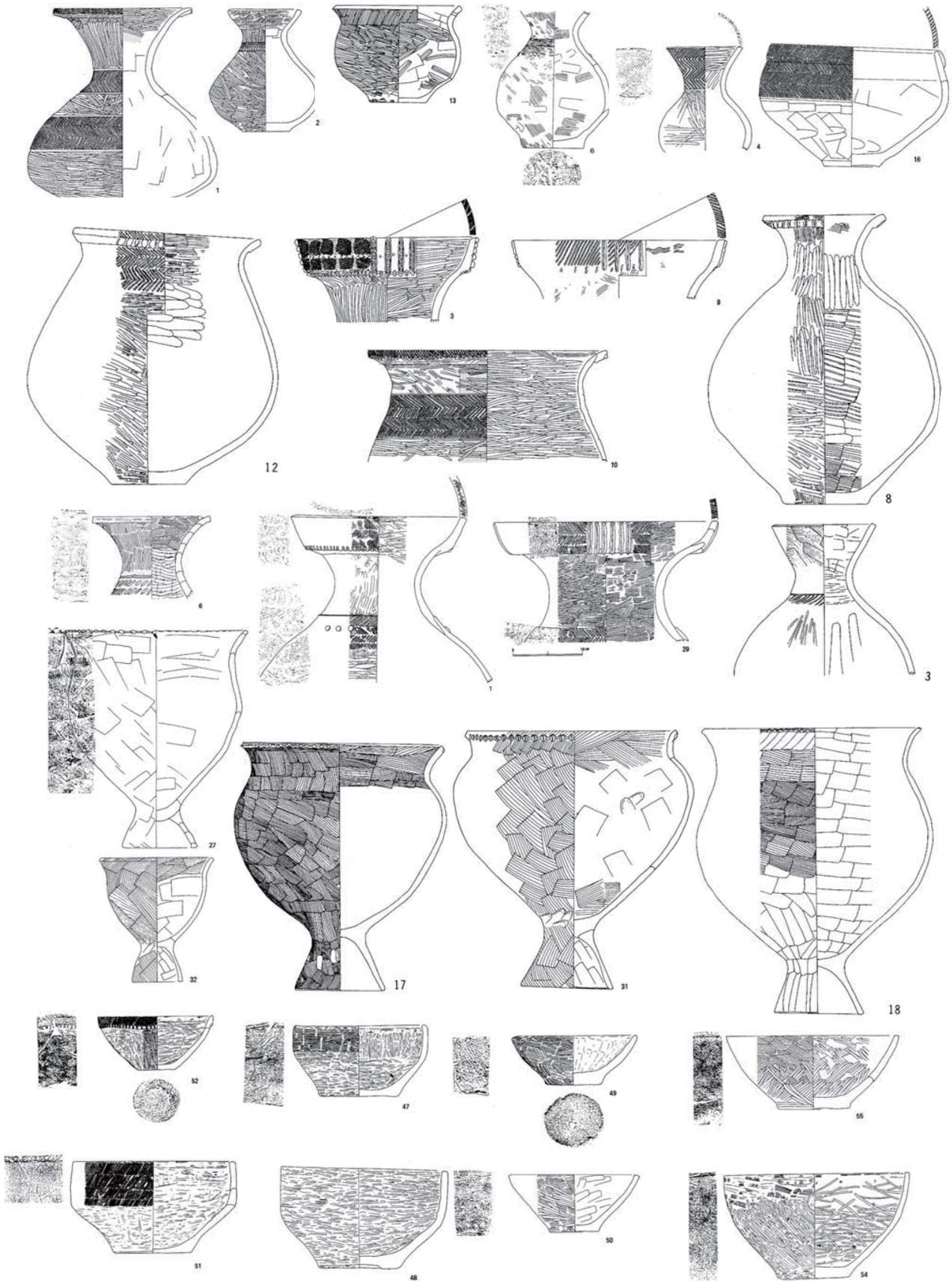
109号住居跡



51号住居跡



62号住居跡



2号溝



69号住居跡



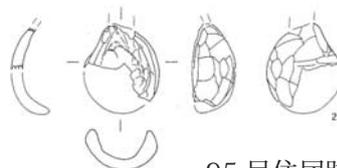
141号住居跡



116号住居跡



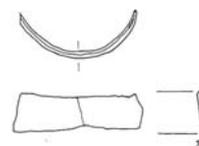
99号住居跡



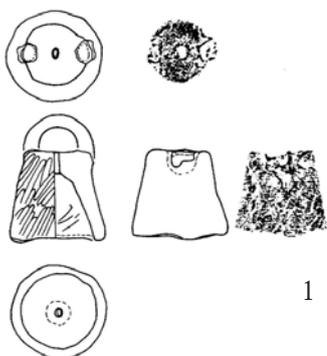
95号住居跡



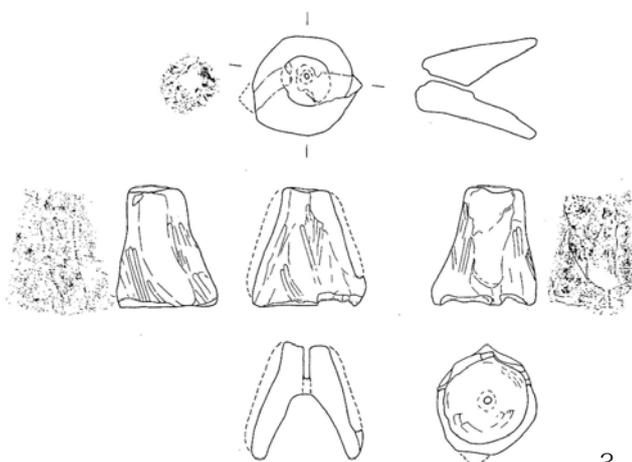
65



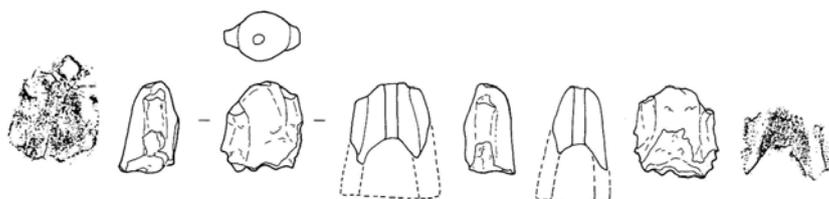
30



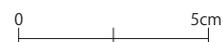
1



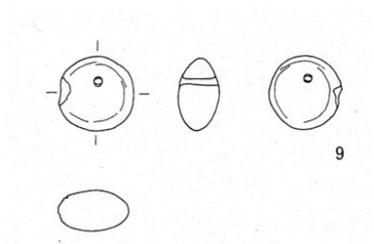
3



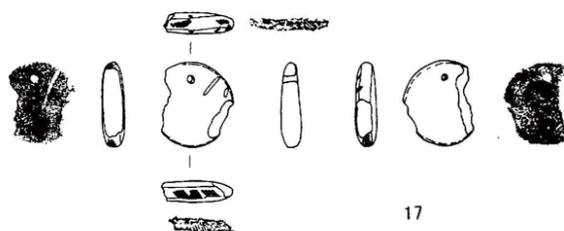
2



2号溝



5号住居跡



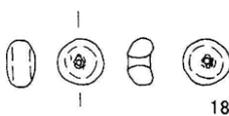
77号住居跡



17

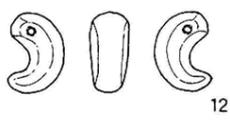


60・61号住居跡



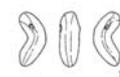
18

84号住居跡



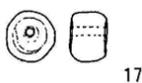
12

97号住居跡



15

100号住居跡



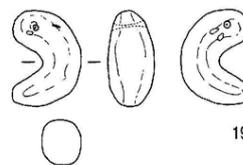
17

108号住居跡



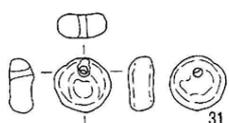
7

129号住居跡



19

132号住居跡

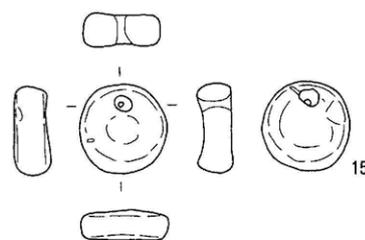


31

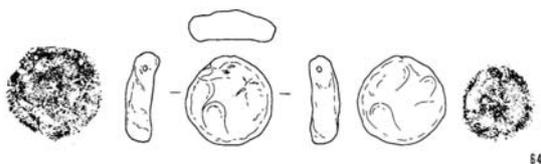
141号住居跡



144号住居跡



15



64

2号溝

